

## 日仏女性フォーラム【Dialogues de femmes: 女たちのダイアログーわたしは見つめる、書く】

いまを生きる女性にとって、「表現」「アイデンティティ」「国籍」「愛」「仕事」「感性」は、いったいどのような意味を持つのか？

20世紀初頭に始まった女性の社会進出が、この21世紀、新たな次元での女性のはばたきを予感させるいま、日本とフランスを代表する、第一線で活躍する女性作家たちが集まり、そのしなやかにして深い文化的視点で、女性の生き方、感性のすべてについて話し合います。ひとつひとつのテーマについて、日仏の固有性、エピソード（知の枠組）を浮き彫りにしながら、文学的に女性の生き方の本質に迫ります。（監修者：生駒芳子）

20世紀、文学の世界での女性の地位は大きく変動しました。文学において普遍的な「女性らしさ」を確立したからではありません。女性が「書く」事により、文学の可能性が更に広がりをみせたためです。シモーヌ・ボヴォワールの「第二の性」に書かれた「女として生まれるのではない。女になるのだ」ということは、女として生きるということは個人の選択によって初めて成立することを伝えています。

50年もの間、女性ジャーナリスト、政治家、作家は皆、仕事、恋愛、結婚、子育て、などを通じ、社会の中での女性の位置を探り続けてきました。

現在の成熟した社会では、女性による文学作品は大きな意味をもっており、それは日本とフランスどちらの国でも違いはありません。新たな世代の女性作家たちにより、長く男性支配であった文学界は変革を遂げるのです。

彼女たちは、その独特な感性に皮肉やユーモアを加え、かつて男性の所有物としてしか存在しなかった「女」という存在を、今や自分たちの運命は自分たちで動かすことのできる新たなものに変えています。

今回選抜された作家たちは、「女」に対する過去のステレオタイプを一新し、現在を生きる女性たちに、「女」として生きる貴重なヒントやアドバイスを積極的に発信します。（主催者：フランス大使館）

### 監修者:

ローレル・アドレル氏 (Laure Adler, フランスの著名ラジオ・ジャーナリスト)

生駒芳子氏 (ファッションジャーナリスト、元VOGUE NIPPON副編集長、元マリクレール編集長)

日曜	場所	時間	セッション	フランス・出演者	プロフィール	日本・出演者	プロフィール
3月7日(日) Sunday 7th March	日経ホール Nikkei Hall	10:30-12:00	『Amour et Mariage 愛すること、生きること』	シャンタル・トマ Chantal THOMAS	マリーアントワネットやサド侯爵など、歴史上の人物についての著書を多く執筆。「放蕩」、「サディズム」やフランス王室での生活をテーマに、歴史的観点から様々な男女の関係を考察している。	荻野アンナ OGINO Anna	1956年生まれ。慶應義塾大学文学部フランス文学科教授。1991年「背負い水」で第105回芥川賞を受賞。主な作品に「ホラ吹きアンリの冒険」「蟹と彼と私」。近著は「殴る女」。
		13:30-15:00	『Comme un Garçon 男と女の新しい関係』	クリスティーン・アンゴ Christine ANGOT	自身の人生を通して語る「私小説」を得意とする。多くの作品が男と女の関係を題材としており、常に両者の新しい関係を啓示している。特に女性キャラクターは典型的なそれとは違い、斬新なものが目立つ。	金原ひとみ KANEHARA Hitomi	1983年生まれ。2003年「蛇にピアス」で第27回すばる文学賞を受賞し、デビュー。同作品で2004年に第130回芥川賞を受賞。著書に「アッシュペイビー」「AMEBIC」など。近著は「Trip Trap」。
		15:30-17:00	『Au-delà des frontières 国籍、国境を超える女性の生き方』 ※ティトゥアン・ラマズー氏のビデオ映像を上映予定	ファトゥ・ディオム Fatou DIOME	セネガル出身の、ファトゥ・ディオムは短編小説を得意とする作家。アフリカの口語的なスタイルをそのままに、セネガルで過ごした幼少期の思い出や、移民としてフランスに暮らす難しさをフランス語で描き出す。処女作『Le Ventre de l'Atlantique』は、『大西洋の海草のように』というタイトルで日本でも翻訳されている。	楊逸 YANG Yi	1964年、中国ハルビン生まれ。87年、来日。95年、お茶の水女子大学卒業。2007年「ワンちゃん」で文藝界新人賞受賞。08年「時が滲む朝」で芥川賞受賞。近著に「金魚生活」「すき・やき」。
		17:30-19:00	『Femmes d'encre 創造する女たち』	マリー・ダリュセック Marie DARRIEUSSECCQ	フランス文学博士課程終了時にデビュー作「めず隊ものがたり」がベストセラーとなり、その新しい感性が目まぐるしく。他にも「あかちゃん ル・ベベ」「亡霊たちの誕生」が、日本語にも翻訳されている。	小川洋子 OGAWA Yoko	1962年生まれ。91年「妊娠カレンダー」で第104回芥川賞受賞。2004年「博士の愛した数式」が第55回読売文学賞、第1回本屋大賞を受賞。近著は「カラーひよこことコービー豆」。
3月8日(月) Monday 8th March	日経ホール Nikkei Hall	15:30-18:00	詳細については、国連広報センターの配布資料をご参照下さい。」				
		18:15-18:45	国連との共同セッション 国際女性の日を記念して				
3月9日(火) Tuesday 9th March	日経ホール Nikkei Hall	19:00-20:30	『Mission des femmes 女たちの使命』	ローレル・アドレル Laure ADLER	フランスの評論家。博士課程では女性学の歴史に学び、同じ頃、ラジオ番組「France Culture」での活動も開始。93年フランスのテレビ業界に進出、99年に「France Culture」のディレクターとなる。	津島佑子 TSUSHIMA Yuko	1974年、東京都生まれ。白百合女子大学卒業。「草の臥所」で、第5回泉鏡花文学賞。「ナラレポート」で芸術選奨文部科学大臣賞。同作品で紫式部文学賞を受賞。近著に「あまりに野蛮な(上下)」。
		19:00-20:30	『Cœur à l'ouvrage 恋も仕事も』	リディ・サルヴヴェール Lydie SALVAYRE	トゥールーズで育つ。現代文学と精神医学を学んだ後、作家活動をはじめ。現代社会を舞台にした作品が多く、自身の体験を基に執筆する際も、鋭いユーモアに皮肉や嘲りも加えた作品を発表している。	江國 香織 EKUNI Kaori	1964年生まれ。童話作家としてデビューした後、1992年「きらきらひかる」で紫式部文学賞を受賞。2004年「号泣する準備はできていた」で直木賞受賞。詩や絵本、エッセイでも活躍。近著に「左岸」。

※出演者は予告なく変更になる場合がございます。